

## 新採用職員6人が新たな一歩

### 平成30年度辞令交付式

本JAは4月2日、本店で辞令交付式を行い、新採用職員6人が、本JAの職員としての第一歩を踏み出しました。

新採用職員を代表して宮農指導部米穀課に配属となった阿部亮太さんが「一日でも早くJA職員として組合員や地域に貢献できるよう日々精進していきたい」と力強く誓いを述べました。

佐々木稔組合長は「地域に貢献し、愛されるJAを目指して日々挑戦してほしい」と激励しました。また、4月6日には、新採用職員が研修の一環として本JAの支店や施設を巡回。それぞれの部署や施設の説明を受けました。



(写真上)  
佐々木組合長から辞令を受ける新採用職員(右)



(写真下)  
施設巡回で説明を受ける新採用職員

## 良質米生産に向けて

### 育苗巡回指導



苗の生育状況を確認するJA職員(手前)と生産者

本JAは4月10日から22日まで、水稲の育苗巡回指導を行いました。宮農担当職員が管内の育苗ハウスを巡回し、生育状況を確認。こまめな温度管理などを指導しました。

10日、古川雨生沢地区での巡回指導では、3月21日から4月2日ごろに播種作業をした農家の育苗ハウス9戸を本JA職員と地域の生産者が巡回。発芽が始まった苗の生育状況を確認しました。

本JAの担当職員は「生育は順調に進んでいる。今年は育苗期間中の寒暖差が大きいので、温度管理には十分注意すること。灌水は、気温が上がらないうちに行つゆつ」と呼び掛けました。

本JAでは、良質米生産に向け、健全な苗づくりを目指し、管内各地区で巡回指導を行っています。

## 農業への理解求め

### 小学校に食農教育補助教材贈る

本JAは、管内の小学生に食と環境・農業への理解を深めてもらうこと、高学年向け補助教材「農業と私たちの暮らし」を、管内16の小学校に合わせて995部贈りました。

4月20日、佐々木稔組合長が大崎市立敷玉小学校を訪れ、児童代表の同校5年生佐々木颯汰くんと高橋美衣奈さんに教材を手渡しました。

同校の佐藤憲治校長は「5年生の社会科で、農業に関して実感を持つて理解するためのひとつの資料として活用したい」と話していました。

教材は、JAバンクが食農教育応援事業の一環として発行しているもので、全国の児童たちに寄贈しています。



児童に教材を手渡す佐々木組合長(左)